

2024 年度 編入学試験 【国際学部】

受 験 番 号	氏 名
-	

次の文章を読んだ上で、人工知能（A I）の進歩がもたらす「危険性」について、あなたはどのように考えますか。600 字以内で述べなさい。

（天声人語）見えない「それ」の怖さ

世間が「アレ」で盛り上がるなか、「それ」のことを考えていた。なんのこっちゃだが、人工知能（A I）である。公開中の映画『ミッション：インポッシブル』のシリーズ最新作に登場する主人公の敵が、「それ」と呼ばれるA Iなのだ。意思を持ち、人間の心をよむ▼暴走した「それ」は潜水艦を自爆させたり、膨大な情報から翌日に起きることを予知したりする。恐ろしくも興味深いのは、人知をはるかに超えたA Iに群がる人間だ。権力者は止めるどころか世界を支配するために利用しようとする▼こんな時代が本当に来るのだろうか。『人類滅亡2つのシナリオ』を著した北大客員教授の小川和也さん（52）は、「もうS Fの次元ではないのは確かです」と言う。A Iの進歩で「自分の頭で考える機会が減って、人間が退化する危険すらある」とも▼最悪の事態を避けるには、「超知能は絶対に生み出さない」という共通の決意が必要だと小川さんは話す。でも、常に争ってきた人間が、国や文化を超えて団結できますか。恐る恐る尋ねると、「宇宙人が攻めて来ない限り、無理だと思うこともあります」▼A Iについて考えると結局、「人間とは何か」という問いに行き着く。助け合い、広い視点で考えながら、人間は進化してきたのだ。エゴを抑える理性や倫理観は、生き続けるための知恵でもある▼冒頭の映画で「それ」は何も恐れず、迷うこともない。そんなA Iを怖いと感じる自分の心が、いまはとても大切に思える。

（出典：2023 年 9 月 20 日 朝日新聞 朝刊 天声人語）